

「適切なネット利用の実践事例プレゼンコンクール」優秀賞事例1

団体・グループ名	阪南市立尾崎小学校運営委員会
タイトル	子どもも大人も考えよう

1. 取組の趣旨・目的

運営委員会は、学校の代表の組織として、学校のスローガンを決めたり、集会での司会、募金活動を通して、助け合いの精神を啓発している。その一環として、この適切なネット利用についても学校全体で取り組み、安心・安全な学校生活を送ることを目的としている。

2. 取組内容

6月：運営委員会メンバーで、ネット利用のメリット、デメリットについて出し合う
7月：デメリットについて、どうすれば安心・安全に使うことができるか話し合う
8月：パワーポイントをつくり、1年生にでも分かりやすく伝わる内容にするため話し合う
9月：パワーポイントに加え、事例を分かりやすく伝えるため、劇の練習をする
10月：全校集会で、取り組みを映像で発信する

3. アピールポイント

実際に自分たちが感じたことのあることから取り組み、現実味のある内容になっている。

4. 成果

ネット利用に関して、どこか他人事になっていたが、この取り組みを行い、自分事と考える児童が増えた。

5. 課題と今後の取組について

今回の取り組みの中で、子どもたちから、親への啓発も大事ではないかという意見が出た。そこから、授業参観時にネット利用に関しての授業を行い、子どもも大人も一緒に考えられるような授業をしていく必要があると感じた。

評価ポイント

児童のネット利用から見てきた身近なトラブルを全児童に分かりやすく注意喚起している点

1 個人情報の流出

家の近くの風景や自分の顔（個人情報）などを SNS に載せると被害に遭う恐れがあるので注意が必要！



2 誹謗中傷（些細なきっかけで起こる LINE グループ外しなど。）

根拠もなく人を傷つける言葉を使うことはやめよう！
もし言っている人がいたら、勇気を持ってやめよう！



3 スマホの使い過ぎ

スマホの使い過ぎで体調が悪化したり、視力低下などの悪影響が考えられる。
家の人とスマホをする時間を決めよう！



みんなが分かるように劇にして発表

インターネットを利用し始める年齢が低年齢化していることから、上級生が、自分の周りでも起こりうるインターネットのトラブル事例を踏まえて、小学1年生にも分かりやすいように劇を考え、学校集会で発表されました。

「第35回青少年のインターネット利用環境づくりフォーラム」の場で、実際にその劇を披露していただきましたが、同小学校運営委員会の児童のみなさんの息の合った演技が素晴らしかったです。

今後は授業参観などの機会を利用して、保護者に対しても啓発をされるそうです。

インターネットの使い方は、保護者の方にも協力してもらい家庭での使い方について子どもと大人と一緒に話し合いをすることが重要であると発信されています。

更なる取組みを期待しています。

「適切なネット利用の実践事例プレゼンコンクール」優秀賞事例 2

団体・グループ名	富田林市立葛城中学校生徒会
タイトル	「葛中スマホルール 2020」広報動画

1. 取組の趣旨・目的

中学生で、自分自身のスマホを持つ生徒が増える中、SNS でのトラブルやゲーム等の長時間使用が問題となってきた。本校においても、SNS 上で、軽い気持ちで投稿したことが、人を傷つけるというトラブルがあった。また、スマホの長時間利用によって、生活習慣が崩れている生徒がいたり、学校生活、学習活動に支障をきたす生徒がいたり、学校全体の問題としてとりくむ必要を感じた。

この取組みを行う中で、生徒が主体的に物事を考え、与えられたルールに従うのではなく、自分たちで自分たちの生活を考える力をつけさせたい。また、広報動画という手法は、物事をわかりやすく人に伝える力も養えると考えた。

2. 取組内容

昨年度の生徒会活動で、2017 年度の生徒会活動で作成した「葛中スマホルール 3 か条」の見直しを行った。年に 2 回のスマホ学活でスマホの付き合い方について考え、「葛中スマホルール 2020」を作成した。今年度は、「葛中スマホルール 2020」を周知するために、広報動画の制作を計画した。

今年度は 7 月にスマホ学活を行った。スマホ学活では、生徒が教師役となり、生徒たちだけで授業を行う。1 年生には、スマホルールを知ってもらう、2・3 年生には、スマホルールを思い出してもらうような内容を実施した。広報動画はクラスごとに 1 シーン参加してもらった。また、生徒会本部の生徒が劇を通して、スマホルールをわかりやすく伝えるようにした。劇の台本も生徒会本部の生徒が考え、みんなで演技も考えた。生徒会本部の劇のパートと、各クラスのシーンをつなげて、広報動画が完成した。この作成した動画を、小学生向けの学校説明会や、市内中学校生徒会との交流会などで流して、広めていきたい。

3. アピールポイント

とにかく「わかりやすい」広報動画づくりを心がけた。また、生徒会本部の生徒だけが活躍する（参加する）のではなく、全校生徒が参加する動画になるようにした。教師からの働きかけだけではなく、スマホ学活という生徒が主体の授業時間をもった。自分たちのルールを自分たちでつくり、広めていくという気持ちで取り組めるように、台本づくりや、演技構成の面で生徒の意見を多く取り入れた。

